

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

2013/8/31

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670102674号
法人名	株式会社サンライトメディカル
事業所名	グループホームやすらぎの家
所在地	鹿児島市高麗町2-2-16 (電話) 099-285-1211
自己評価作成日	2013/8/19

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	2013/8/28

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目の前に公園があり、明るさや風景が生活環境の良さだと思っています。又、訪問看護・訪問受診など24時間気楽に相談できる看護師が配置され連携がとれています。1年を通しての行事としては、雛祭り、開設記念、家族交流会、お寺参り、お盆法要、夏祭りなどを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市内中心部にある「グループホームやすらぎの家」は2階が共用空間のフロア、3階が利用者の居室になっている。目の前が公園、協力医療機関、近隣に同系列のグループホームなどが立ち並び、利用者が地域住民と声をかけ、会話しながら生活しやすい環境のなかに在る。特に同系列のグループホームの中では最初に開設したホームであり、施設長は法人の年間行事を重んじ、利用者同士の交流や家族との触れあいの場を設けイベント時には大勢の人で賑わっている。職員は明るく、やさしさとぬくもりで目くばり、気くばりを大切に家庭的な落ち着いたケアを目指している。訪問受診、緊急医療連携も取れており家族の安心と安全が得られているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を明確にし目の付きやすい所リビングに掲示し常に理念を共有し職員のネームプレートに理念・基本方針を記入し理念に基づき向上心を持って取り組んでいる。利用者により良い支援が出来るよう定例会でも話し合っている。	平成23年3月に理念の見直しをしている。明るさや、挨拶、言葉の交流を大切にしており、目に付きやすい場所に掲示されている。職員の理念の実践への意識は高く、ふいに施設長より訊かれることもある。定例会では理念の振り返りの機会にもなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常ホームの目の前の公園にリハビリの行き帰りに散歩し顔なじみになり声掛けしながらコミュニケーションを取っています。毎月やすらぎ通信・やすらぎの家来施された地域の方に向けての広報誌発行配布を行いホームへの理解が得られるよう取り組んでいる。	町内会に加入しており、自主的に清掃活動を行っている。ボランティアや職場体験なども積極的に受け入れ、公園への朝夕の散歩で、近隣住民と挨拶や会話を大切にしている。同系列での合同夏祭り、ドライブを兼ねてのお寺参り、広報誌の配布で、事業所が地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方、家族からの認知症についての相談や介護相談にも気軽に来訪して頂き対応しています。利用者や職員との触れ合いの中での認知症への理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一回2Fリビングで包括支援センターより来訪して頂き地域代表・民生員の方を交えて利用者の現状報告・活動状況を話し合っている。(例) 火災・防災・感染対策等、話し合いサービス向上を図っている。	地域包括センター職員、民生委員、家族の代表などの参加で2ヶ月に1回開催している。現状報告や取り組み状況を話し合いそこでの意見をサービス向上に活かしている。目の不自由な利用者の家族から希望に応じ、嚥下し易いさざみとろみ食へ変更したり、衛生面に考慮してリネン用品使用への改善策に繋がっている。	町内会長の交代に伴い、以前の密な地域との交流が途絶えてきている。新町内会長にホームの現状とホームを紹介することで利用者やホームへの理解が得られ、地域住民として更なる関わりが持てるものと思われる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談の受け入れ職場、体験学習・サマーボランティア等の場として積極的に受け入れている。又、市の福祉課の職員・包括センターに相談することもある。	市町村の担当者と感染症の情報共有に努め、空き状況の報告、更新時など日頃から連携を密に取り協力関係を築いている。サマーボランティア、職場体験、福祉体験の要望も可能になり、より良い運営やサービスのあり方を模索している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを整備し年に1回身体拘束や虐待について学習するとともに身体拘束を行わないケアを実践している。定例会や業務日誌申し送りヒヤリ・ハット等で職員同士や自分自身の1日のケアを振り返り本人の気付かない部分で拘束につながる行為を行っていないか話し合う時間を持っている。	長時間の座位を防ぐため足を動かしたり寝かせたりできる大型のソファを置くなど配慮している。玄関の施錠はせず、利用者の動きを目で追うなど威圧感のない見守りで支援している。職員は定期的な身体拘束の勉強会を開き、言葉の拘束を含めケアのあり方を振り返っている。新人職員の為の具体的な独自のマニュアルも検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・ミーティング等でお互いの言動に注意を払い防止に努めている。虐待防止の理解浸透に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修において学ぶ機会を持ち利用者に代わって言い分や主張が代弁することが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を受けた際事前に見学して頂き当施設だけではなく、他の施設の見学も進め本人に合った施設を選んでいただくよう助言を行っている。再度、来訪時契約書を配布し契約の際には読み合わせを行い時間をかけて説明を行い理解・納得の上サインを頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームの玄関に苦情箱を設置し相談窓口・市や第三者委員の連絡先もリビングの入り口に掲示している。又訪問時・手紙・電話にして、常に問い掛け何でも話して頂けるような雰囲気作りに留意し出された意見、要望等はミーティングやその都度話し合い早急に回答できるように努めている。	家族交流会を5月、12月の年2回開催し手作りの弁当を提供している。県外の家族も含め全員参加で法人合同の餅つき大会もあり賑わいをみせている。1日に1、2軒家族の訪問もあり、家族が意見を言い易い雰囲気づくりで良好な関係が構築され、それらを運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・勉強会申し送り等を利用している。又、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け問い掛けたり聞き出したりその都度、話し合っている。	利用者の手形やエプロンを作るなど職員の意見やアイデアが活かされ、管理者は職員への声かけや心のケアを大切にしている。出された要望は運営者に報告され職員の質の向上に繋げており職員の資格取得にも積極的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者・管理者職員同士で悩み等の相談にのり職員が向上心をもって笑顔で働けるようミーティング・勉強会・申し送り等を利用し日頃からコミュニケーションを図ることが出来るよう心掛け、職員の疲労やストレス解消の機会として職員の親睦会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員同士が掃除・介護・その他の気付きに関してその都度、話し合い早急に対応している。又、定期的に内部研修を行い積極的に外部研修にも参加している。研修報告は定例会の際に報告している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連の施設との研修会や親睦会等で交流の場を持ちサービスの質の向上に取り組んでいる。他のグループホームとの交流も積極的に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について事前に利用者を訪問し、生活状況・心身状態を把握し利用者が不安無く入居出来るよう職員が利用者を受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴する姿勢で話を伺い施設に対する不安等充分受け止め信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し普段から教えてもらう場面が多く支援する側、される側という意識は持たず共に支え合える関係作りに留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら利用者の日々の出来事や気付きの情報を共有し利用者様を支えて行く為の協力関係を保ち同じ思いで支援していく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人親戚の方が気楽に訪問したり継続的に交流できるよう働きかけている、利用者に関係のあった方々の行きつけの美容室・なじみの店に買い物や食事に行くなど以前と変わらない環境の中で生活が出来るよう支援を務めている。	家族と馴染みの美容室や外食を楽しんだり、職員同行でお寺参りや市内のドライブに出かけている。階段が多く墓参りの困難な利用者は家族に面会をお願いすることで落ち着いている。車椅子の利用者も散歩を兼ねて近隣のコンビニに出かけ、常に外出の機会を持ち、五感の刺激が得られるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、支えあっている関係性について情報把握に努め、日々心身の状態、感情が変化する事もあるので、職員が注意深く見守って調整役となり支援していく。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された後も電話や面会に行くなどしている。また、いつでも訪問していただけるよう声掛けし相談等受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動や表情・言動の中からの訴えの真意を察しとらえられるよう職員一人ひとりが把握できるよう対応し同じ方向性で支援できるよう努めている。	耳の不自由な利用者が多いため、目線をあわせ低い位置から利用者を軽くタッチしたり、ゆっくり話すことや手振り、身振りで意思の疎通を図っている。利用者もテーブルをトントンとたたき思いを伝え、職員と利用者の信頼関係が出来ており、一人ひとりの思いや意向の把握への努力が見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者自身の話を傾聴し、親戚・知人の来訪時にその人のライフスタイルや価値観など過去の情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕・入浴前バイタルチェックを行い一人ひとりの体調管理と生活のリズムの把握に努め出来ることを一つでも多く発見出来るよう努め残存機能を活かした支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が、その人らしく暮らせるよう利用者・家族様の要望を伺い計画を作成しスタッフでの意見交換モニタリング・カンファレンスを行い介護計画に反映させている。6カ月毎の定期見直しに加え必要の場合は、その都度介護計画書の見直しを行っている。	本人がより良く暮らすための気づきやアイデアを家族や職員と話し合い介護計画は作成されている。薬をためらう利用者には小さなおにぎりのなかに薬を入れ、ふりかけでまぶす食べ方や、熱中症対策の全員水分補給の徹底など詳細にまた個々に応じた介護計画である。介護計画の見直しも現状に即した対応となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録として、食事・水分摂取・排泄・体重・バイタルチェック等を記入し、業務日誌・ケース記録・申し送りノート等、勤務開始時に確認を義務付け情報の共有化を図り介護計画の見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関または利用者様家族の希望する、かかりつけ医との連携を図り受診の送迎、付き添いの支援は臨機応変に対応している。家族・利用者の満足感が高められるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と地域との様々な接点を見直し地域の中でその人らしく生活出来るよう民生員・消防・警察等の意見交換の場を設定したり利用者との関係があるボランティアへ呼びかけをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外のかかりつけ医での医療を受けられるよう家族と協力し訪問医療、訪問看護を受けている。例) 訪問歯科 さくら歯科など。	定期受診と眼科などの専門医療の受診はこれまでのかかりつけ医へ家族に同行してもらい、職員は情報を家族と共有している。理解しづらい場合は主治医に直接、確認している。訪問歯科や皮膚科の往診もあり、協力医療機関との連携も取れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関に認知症について相談・指示・助言を受け対応し専門医等の受診を個別に行っている。24時間相談出来る看護師、医師が配置され連携が取れている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には頻繁に見舞うようにしている。又、早期退院に向けて家族と協力しながら医療機関と情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や家族会議を行い家族との話し合いの場を設け施設の方針として重度化や終末期に対応していく具体的な方針を含め資料の作成を行い同意を頂いている。また利用者の変化に応じて必要な時期に意向を確認しながらケアにあたっている。</p>	<p>看取りの経験はまだないが、重度化した場合の対応のあり方を入居時に話し合い、ホームの具体的な方針を伝え同意を得て文章化している。また利用者の状況変化に応じた繰り返しの話し合いも行き、家族の希望や意思を尊重して医師を交えての対応にチームとして取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを整備し職員研修等で周知徹底を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	設備会社・消防署の立会いの下、年に2回昼・夜間想定し避難・消火器の使用方法や避難路の確保等・消防設備の点検も定期的に行い運営推進会の際に消防署員の方による（火災対策についての指導）をして頂いている。	消防署の提案で、自主訓練として3ヶ月に1回の割合で避難経路や誘導の仕方、地震対策では利用者の持ち込み仏壇の高さが危険なため、位牌に替えてもらうなど、全職員があらゆる災害に対応できるように訓練している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の漏洩防止に努め秘密保守の徹底を図るため職員全員の勉強会やミーティングを開き職員の意欲向上を図ると共に管理者が日頃の言動を点検するよう、プライバシーについて配慮している。	一人ひとりの人格を尊重し、入浴やトイレなど同性介助にも配慮している。失敗時にはさりげない対応を心掛け、職員は言葉づかいやプライバシーの守秘義務も理解しており個人情報も管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は家族の思いに寄り添いながら利用者の日々の出来事や気付きの情報を共有し利用者を支えて行く為の協力関係を保ち同じ思いで支援していている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事務所のスケジュールに利用者をおろそかせず、その人の生活リズム時間に配慮し、その時の気持ちを尊重して、出来るだけその人らしさを大切にして支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の馴染みの美容院で希望に合わせたカットをしてもらえるよう支援したり来訪して頂くなどして支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや苦手な物、アレルギー食材その日の健康状態等を把握し利用者との会話の中からメニューを決めたり旬のものを取り入れ食事が楽しみになるようにしている。利用者が出来ることはお手伝いしていただくよう、お願いしている。	嗜好調査と体調に合わせた調理であり、食事の時間もゆっくりかけ完食を目指している。十五夜のだんごやおはぎも季節感を味わう支援であり、敬老会には紅白饅頭もふるまわれる。旬の食材を使うことを心がけ、利用者は保存食の手伝いで昔の記憶を呼びもどしている。おはら祭りの前日にはお好み焼き、夏祭りではかき氷を食べるなどホーム独自の食の提供もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	一人ひとり嗜好を把握しており摂取 量等を記入し管理栄養士のアドバイ スを受けている。水分量について少 ないと思われる方や持病により水分 を控えなければならない方など水分 チェック等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	口腔内のチェックをおこない口 のなかを他人に触られる利用者 様の気持ちに配慮しつつその方 の能力に応じた歯磨きの手伝い をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	利用者の行動・時間・習慣を把 握し本人の生活リズムに合わせて 支援し気持ちよく排泄出来る よう支援している。	日中はトイレ誘導で自立排泄が出来 ている利用者が多く、リハビリバン から布パンツに改善した利用者もい る。便秘にはさつま芋やヨーグルト などで対応し便秘薬は医師の指示を 受けている。個々の排泄パターンの チェック表の見直しも検討してい る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材・乳製品・水 分補給など、食材の工夫や利用 者が出来る範囲での運動を働き かけ自然な排便ができるよう取 り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者に沿った入浴をして頂いている。ゆっくりしたい方は、その方の時間で入浴を楽しんで頂けるよう支援している、その日の体調や状況に応じて代替日や清拭にて支援を行っています。	週に3回を基本とし、毎日入浴を希望する利用者にはその都度、時間も特に決めず、朝風呂や夕方など柔軟な対応に努めている。足浴や清拭など体調に応じて切り替え常に清潔が保たれている。シャンプー、リンスも本人の好みの物を使い入浴を楽しむことのできる支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を把握し生活のリズムを整えている。安心して気持ちよく過ごせる環境づくりに努めゆっくりした気分で休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとり服薬ファイル・カレンダーを作成し職員全員で管理しくすりの処方や容量が変更になった時は申し送りに記載している。朝・昼・夕眠剤等、個別に袋に入れ服薬は時には本人に手渡し、きちんと口の中に入り飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	下膳やお盆拭き、洗濯物のたたみ等利用者様の出来る事をお手伝いして頂き役割を持って楽しく生活して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	目の前に公園があり、リハビリ通院時の往復の際、希望の時間に散歩に出掛けるなど日常的に外出して頂けるよう支援している。家族と一緒に外出や買い物に行く事が出来るように支援している。	晴天の日は日常的に玄関前の公園で日光浴をしたり手作り弁当を食べたり四季を感じられるように写真を撮ったりしている。家族と外食や買物を楽しみ合同のお寺詣り、ドライブも楽しみの一つになっている。本人の希望を把握し出かけられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を遣う場面を作るなどして支援している。希望や力に応じて買い物の際に靴や洋服を選び自身で購入していただく事もある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>人目を気にせず御家族やご友人に電話がしやすい雰囲気作りをし、ほかに聞こえないように配慮している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた日用品を居室に持ち込んで頂き自由に居室で休んでもいただき居室に行かれる時は必ず職員が付き添い空間管理を行っている。</p>	<p>広い明るいリビングと畳の間には大型の仏壇が据えられており、これまでの百歳を越えた利用者の写真が飾られ、自宅同様朝夕、手を合わせるように心を落ち着かせている。ゆったりとしたソファが2脚おいてあり利用者はのんびり穏やかな時間を共有できる環境にある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには自分の席があり談話室にもソファとテレビがあり、それぞれに仲間との時間や自分だけの時間が過ごせる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を置きリビングの入り口や室内に季節感を感じて頂いている。利用者に合わせた室温調整を行っている。	避難時の車椅子での対応を考慮してベランダへ出せるように広い窓である。壁、床も明るく、清潔であり、居室には位牌や手作りの折り紙など好みのものを置き、落ちつける空間になっている。ポータブルトイレも布を掛けるなどプライバシーにも配慮してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい表示や居室の目印等を使い自立した生活が出来るように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームやすらぎの家

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームやすらぎの家

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない